



テーマ | 食欲の秋

Pick UP !

最後の龍一郎の言葉に涙腺がゆるむ。全国の母に読んでほしい一作

『母さんは料理がへたすぎる』白石睦月/著(ポプラ社)

ISBN:978-4-591-16585-0



主夫だった父親が事故で亡くなって3年。料理が苦手な母親と幼い三つ子の妹を支える15歳の主人公・龍一郎が、自らの道を模索していく物語。個性豊かな三つ子や普段はおおざっぱで明るい母の深い悔恨が描かれている連作短編集。



『キッチン・セラピー Kitchen therapy』宇野碧/著(講談社)

ISBN:978-4-06-531807-2



様々な悩みを抱えた人たちが「町田診療所」に訪れ、料理を通して自分の悩みと向き合い心を癒していく物語。

言葉が刃物のように人を傷つけ、時には命すら奪ってしまうという描写が、考えさせられる作品。

苦悩の痛みを受け入れ自分らしさを見つけられるのか？



『100年のレシピ ONE HUNDRED YEARS OF RECIPES』

友井羊/著(双葉社)

ISBN:978-4-575-24684-1



「伝説の料理研究家」大河弘子の人生と、戦後から現代までの食の歴史を絡めて描いた連作ミステリ。単なる謎解きではなく、その時代を生きた人々が何を食べていたかという日本の食文化史としても楽しめる作品。「家庭料理とは何か」を軸に、家族や人間関係の深いドラマがそれぞれの章で丁寧に描かれている。



QRコードを読み込むと、品川図書館のホームページから本の詳細を確認することができます。

→裏面もチェック！

『図書館のお夜食』原田ひ香/著(ポプラ社)

ISBN:978-4-591-17824-9



仕事が行くまもなく悩んでいた樋口乙葉。SNS で「夜の図書館」の求人を知り、働くことを決意。その図書館は貸出を行わず、「亡くなった作家の蔵書」を集めた「本の博物館」のような場所だった。職員には、さまざまな物語に登場する料理が夜食として提供される。そこで起こるさまざまな経験を通して、働くことの意味について考えていく。



『うしろむきタ食店』冬森灯/著(ポプラ社)

ISBN:978-4-591-17796-9



路地裏の「タ食店シマ」の名物は、引いたメニューを味わう「料理おみくじ」。そんな店に訪れるのは仕事や人間関係に迷い、心が後ろ向きになった客たち。愛情豊かな料理と優しい出会いが傷ついた心を包み込む、客たちが再び前を向いていく姿を描いた温かい連作短編集。



注目の新刊

7/1～7/31 の間に新しく受け入れた本の中からおすすめを紹介！

タイトル	著者 出版社	ISBN
朱天の都	加賀谷きよい/著 新潮社	978-4-10-357021-9
蟲母神の娘	北里紗月/著 光文社	978-4-334-11021-5
悪行の王 切支丹陰陽師	武川佑/著 文藝春秋	978-4-16-392115-0
天保釣り合戦顛末記	土橋章宏/著 小学館	978-4-09-386793-1
ハッピー山	松田いりの/著 河出書房新社	978-4-309-03276-4